

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 奥出雲町立仁多中学校 ～

1. 概要

6月21日(金)、奥出雲町立仁多中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、地元の遺跡や奥出雲町の古墳について、県埋蔵文化財調査センターの職員から話を聞き、奥出雲町原田古墳から出土した本物の土器類に触れてみました。今回の体験が鏡の鑄造であることから、三刀屋熊谷1号墳出土の古墳時代の鏡にも触れてみました。

その後は、低融点金属を使用して鏡の鑄造に挑戦。火傷しないように気を付けながら溶かした金属を鑄型に注ぎました。時間切れのため研磨は十分にできませんでしたが、それでも古代の技術に一端に接することができたようです。

2. 様子

1) 奥出雲町の遺跡について理解を深める。



「奥出雲町にもたくさん遺跡が！」



本物(三刀屋熊谷1号墳出土)の鏡を前にして

2) 低融点金属を使用した鏡の鑄造



「インゴットをガスコンロで溶かして・・・「わ！溶けた」



「磨いて、磨いて」光る鏡になるかな

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・鏡を磨くのが大変だった。
- ・鏡を作って難しかったけれど楽しくできてよかった。鑄造は一回で成功してうれしかった。次回はもっと上手に作って、鏡のようにしたい。
- ・家に持ち帰った後もしっかりと磨くことができてよかった。
- ・次回は勾玉を作りたい。
- ・ものを作るのが好きなので土器も作りたい。

2) 担任の先生から…

- ・生徒の地元から出土した遺物に触れる機会に恵まれました。また、高品質な金属器の製作を体験することができ、貴重な経験となりました。
- ・生徒間で語彙力に差があるため、話し言葉では熟語よりは、聞いてすぐ理解できるような平易な表現をお願いします。
- ・「子ども塾」事業は通常、年度初めにしか募集が行われませんが、年度途中での申し込みも受け入れてほしい。

3) 埋文センターから

前半の座学の部分で時間をかけすぎたため研磨工程の作業時間が足りなくなりました。もう少し時間配分を修正する余地があったようです。

積極的な発言も多く、みんなしっかり授業に参加してくださいました。授業中、古墳時代の人が鏡をどのように思っていたかという問いに、すかさず「太陽！」と答えた生徒さんには発想の豊かさに本当に驚きました。

金属製品の鑄造という非日常的な体験活動となり、本物だけが持つ魅力から地元の歴史をより一層身近に感じてもらうことができたと思います。